

を | 公 | 表 |

を 潤いのあるまちづくり

昭和60年度一般会計 〔一般会計とは市税収入を主な財源として、福祉・教育・道路・消防などに使われる会計です。〕

歳入 会計年度内(4/1~翌年3/31)に入ってきたお金		
科目別	収入済額	構成比
総額	532億9,077万円	100 %
市 税	288億7,811万円	54.2
分担金及び負担金	14億2,454万円	2.7
使用料及び手数料	7億4,294万円	1.4
国庫支出金	40億1,360万円	7.5
県支出金	35億9,407万円	6.7
繰入金	16億2,613万円	3.1
繰越金	18億4,194万円	3.5
諸収入	34億7,641万円	6.5
市 債	49億8,250万円	9.4
その他	27億1,053万円	5.0

私たちが納めた税金はどのように使われているのでしょうか。市は、市の財政事情を市民の皆さんに知っていただくため、毎年六月と十二月の二回、「富士市の財政」を公表しています。今回は、昭和六十年度決算の状況を中心に、昭和六十一年度予算とその執行状況をお知らせします。

Q

富士市は最近いろいろな施設を建てていますがその費用はいくらですか。



大野達明君
(元吉原中学校3年)

主な施設は次のとおりです。

- ・ 第一清掃工場 六十四億四千八百万円
- ・ 斎場 十六億百万円
- ・ 新幹線新駅(建設中) 約百三十三億四千八百万円
- ・ 東部浄化センター(建設中) 約九十億円
- ・ 保健婦人センター(来年度より着手) 約十一億二千万円

A

歳出 会計年度内(4/1~翌年3/31)に支出したお金		
科目別	支出済額	構成比
総額	510億8,960万円	100 %
議会費	3億9,914万円	0.8
総務費	39億1,891万円	7.7
民生費	54億4,101万円	10.6
衛生費	87億1,879万円	17.1
労働費	13億2,305万円	2.6
農林水産業費	12億5,822万円	2.5
商工費	12億2,008万円	2.4
土木費	161億5,055万円	31.6
消防費	18億1,174万円	3.5
教育費	71億6,003万円	14.0
災害復旧費	4,531万円	0.1
公債費	36億4,275万円	7.1
諸支出金	2万円	—



7月から稼働した第一清掃工場の総事業費は64億4,800万円

富士市の財政事情

一般会計 510億円

1人当たりの市税負担額

13万3,083円

1人当たりに使われたお金(一般会計)

23万5,442円

特別会計

特別会計は、特定の事業を行う場合、一般会計とは別に経理する会計です。(財産管理特別会計は省略しました)

歳入総額

178億5,921万円

歳出総額

173億97万円

市民税の内訳

総額 288億7,810万円

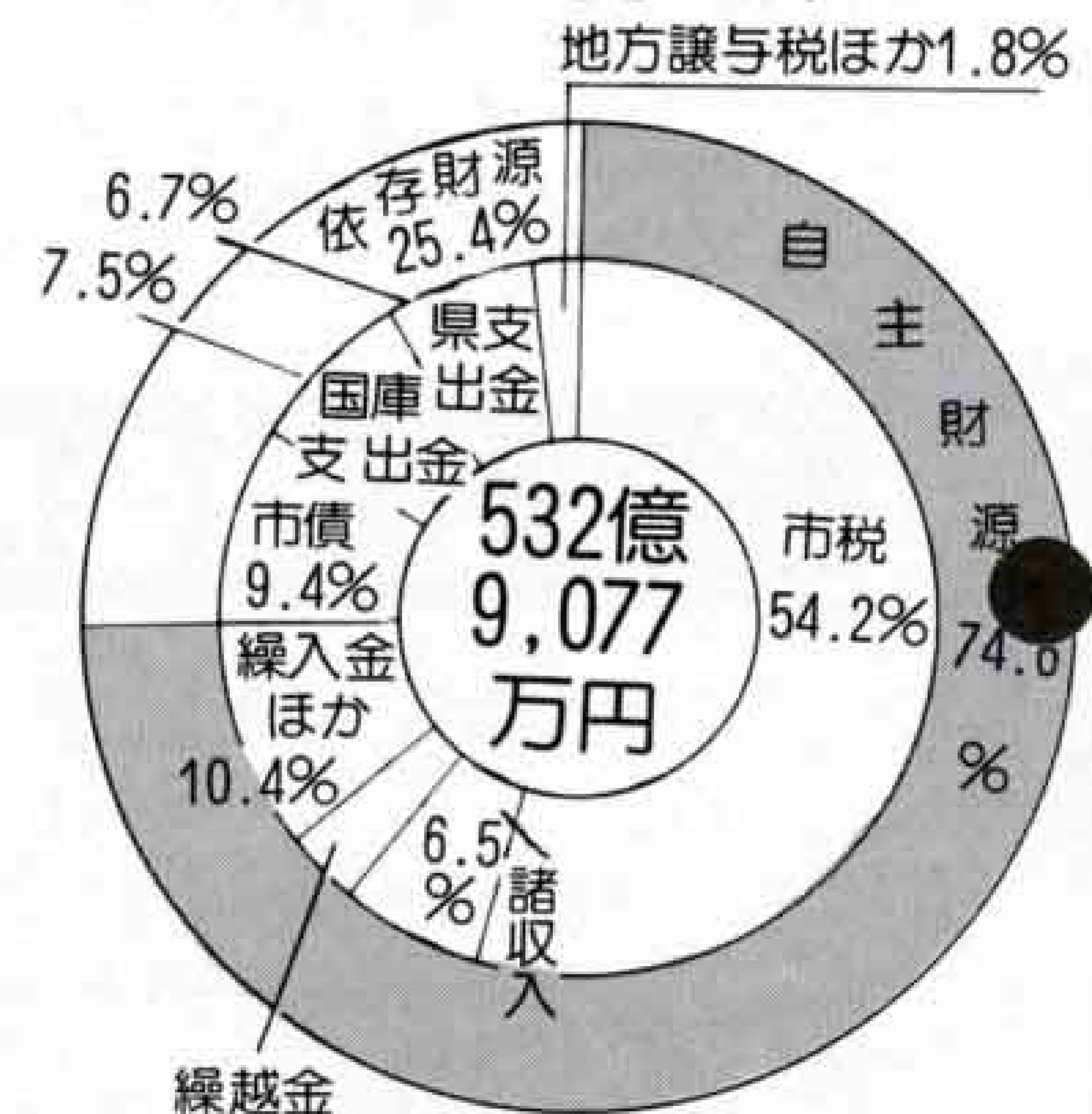
市民税 47.4%	固定資産税 34.3%	電気税 9.0%	都市計画税 5.2%	その他 4.1%
136億8,234万円	98億9,580万円	25億8,863万円	14億9,817万円	12億1,316万円

会計区分	歳入	歳出
国民健康保険事業	64億9,949万円	61億9,336万円
下水道事業	52億1,039万円	51億8,664万円
依田原新田土地区画整理事業	8,592万円	3,784万円
富士中部土地区画整理事業	11億9,451万円	11億8,614万円
地方卸売市場事業	3億8,082万円	3億7,627万円
駐車場事業	5,549万円	5,420万円
公共用地先行取得事業	1億2,188万円	1億2,144万円
老人保健医療事業	41億3,650万円	40億9,386万円

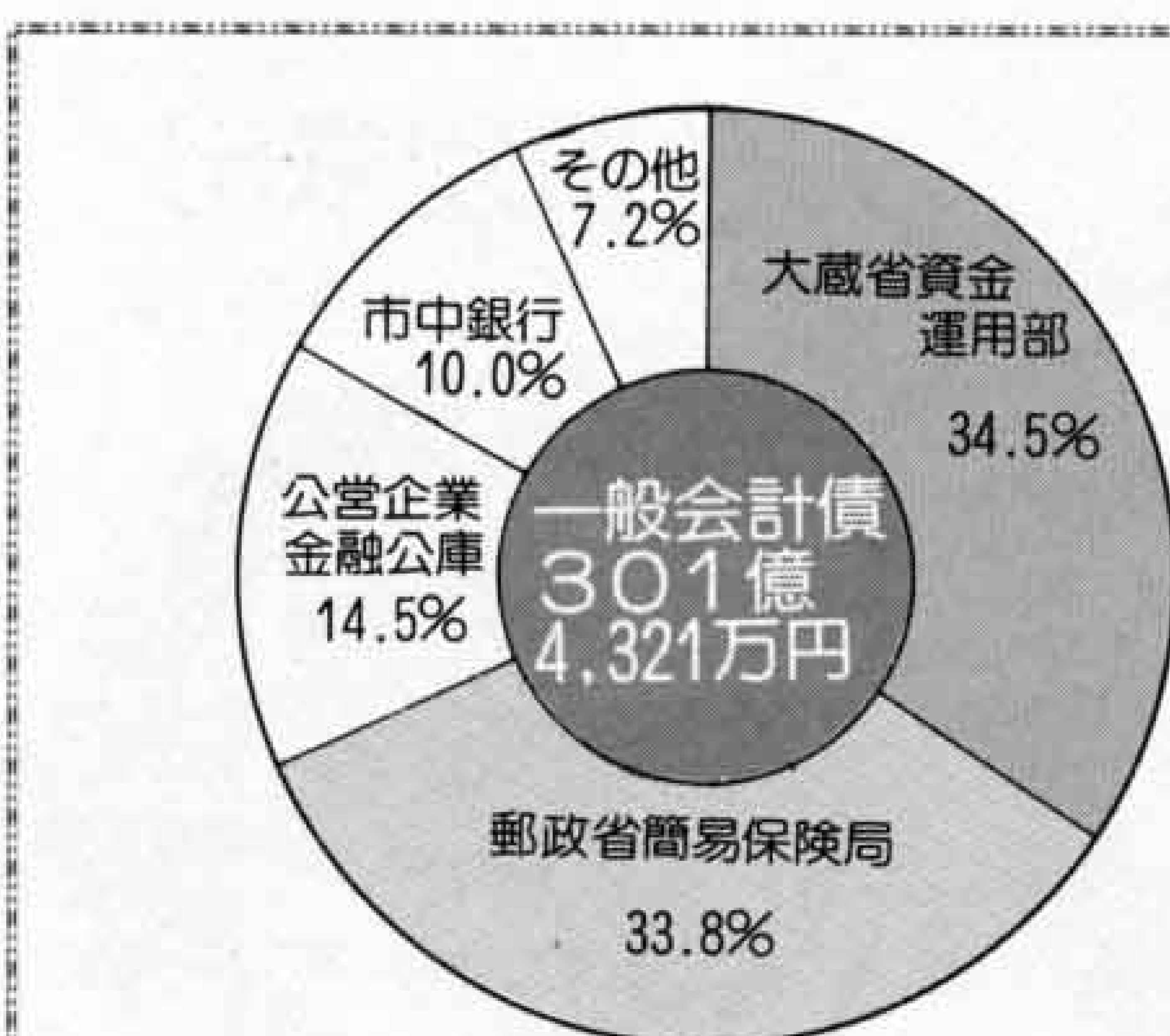
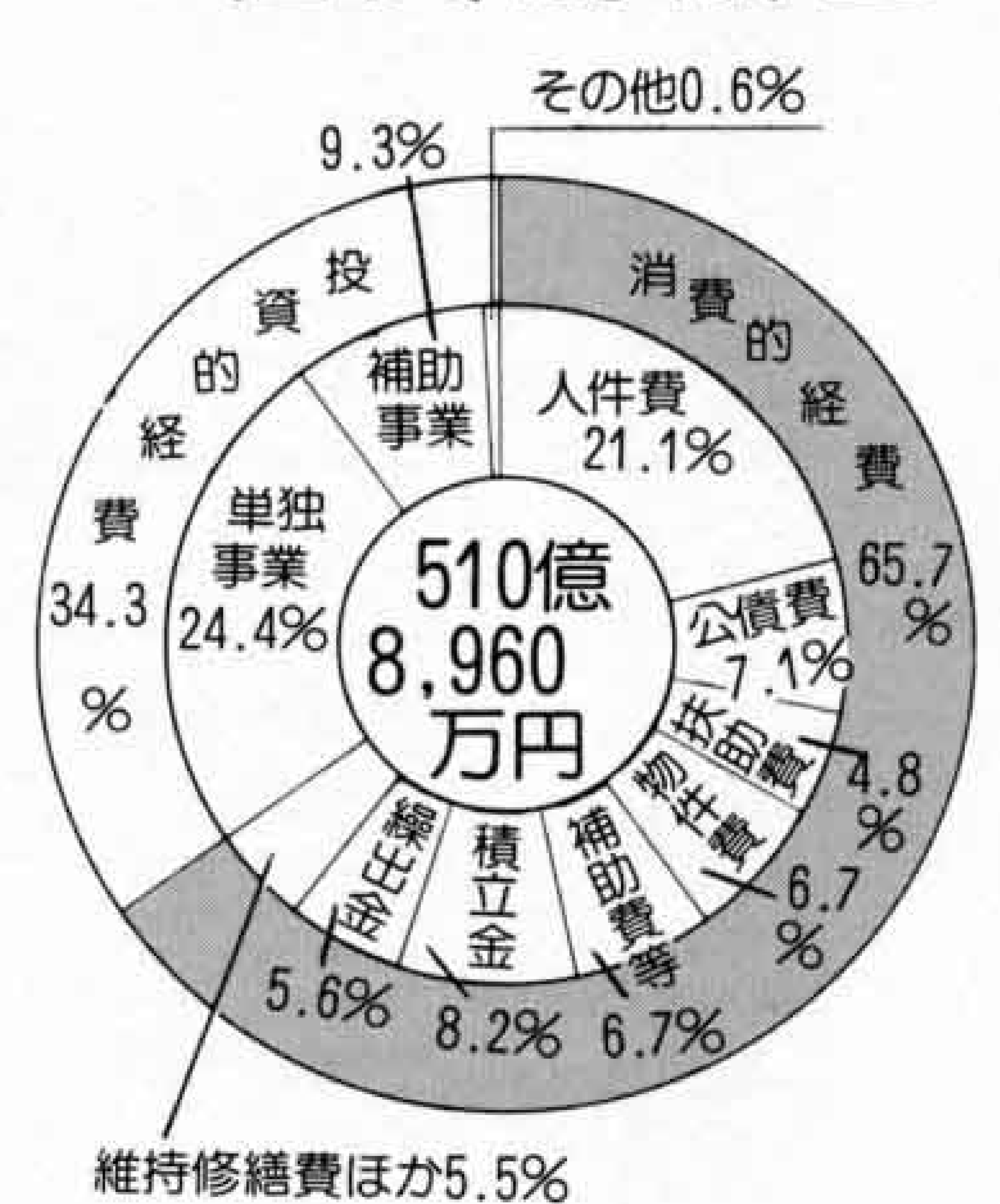
市有財産の状況

	有価証券 1,604万円
	土地 4,918万3,518平方メートル
	建物 53万4,906平方メートル
	立木 23万3,226立方メートル
	車両 261台
基金の現在高 67億8,439万7,696円	

財源別歳入



性質別歳出



市債の状況

市の借金を市債といいますが、道路や学校をつくるには、巨額な費用が必要となり、市税や補助金だけでは賸えません。そこで国や銀行からお金を借ります。現在の市債は次のとおりです。

一般会計債 三百一億四千三百二十一万円

特別会計債 百六十三億二千二百四十万円

(いずれも九月三十日現在)

昭和61年度

一般会計の予算及び執行状況

上段：予算額
下段：執行額

市 税	296億7,647万円 172億9,916万円	歳入
市 債	45億2,040万円	
繰入金	31億5,802万円 10億6,436万円	
諸収入	29億7,631万円 4億465万円	
国庫支出金	28億5,539万円 7億5,156万円	
繰越金	21億3,229万円 21億3,229万円	
県支出金	17億6,934万円 5億4,958万円	
その他	46億9,078万円 17億4,738万円	

歳出	47億10万円 30億837万円	その他
	16億3,324万円 6億5,513万円	消防費
	37億6,086万円 18億2,327万円	公債費
	41億1,042万円 17億8,595万円	総務費
	58億175万円 24億6,619万円	民生費
	58億7,236万円 28億8,180万円	衛生費
	99億4,533万円 30億1,912万円	教育費
159億5,494万円 47億2,522万円	土木費	

61年度 予算の状況

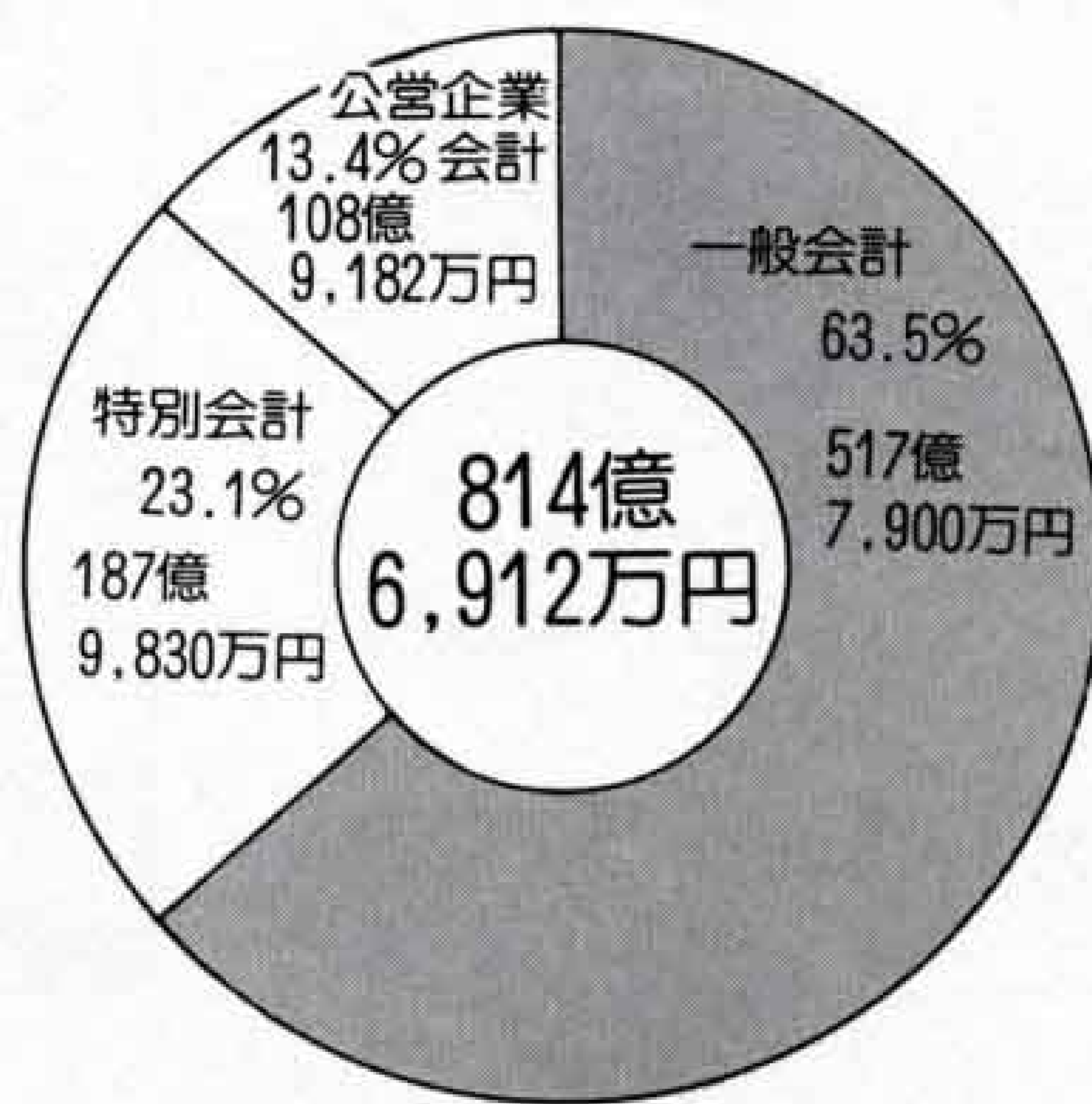
健全な財政運営を堅持

昭和六十一年度の予算額は、二回の追加補正を含め九月三十日現在で、一般会計五百十七億七千九百万円、特別会計百八十七億九千八百三十万円、公営企業会計百八億九千八百八十二万円、総額では八百十四億六千九百二十二万円になります。

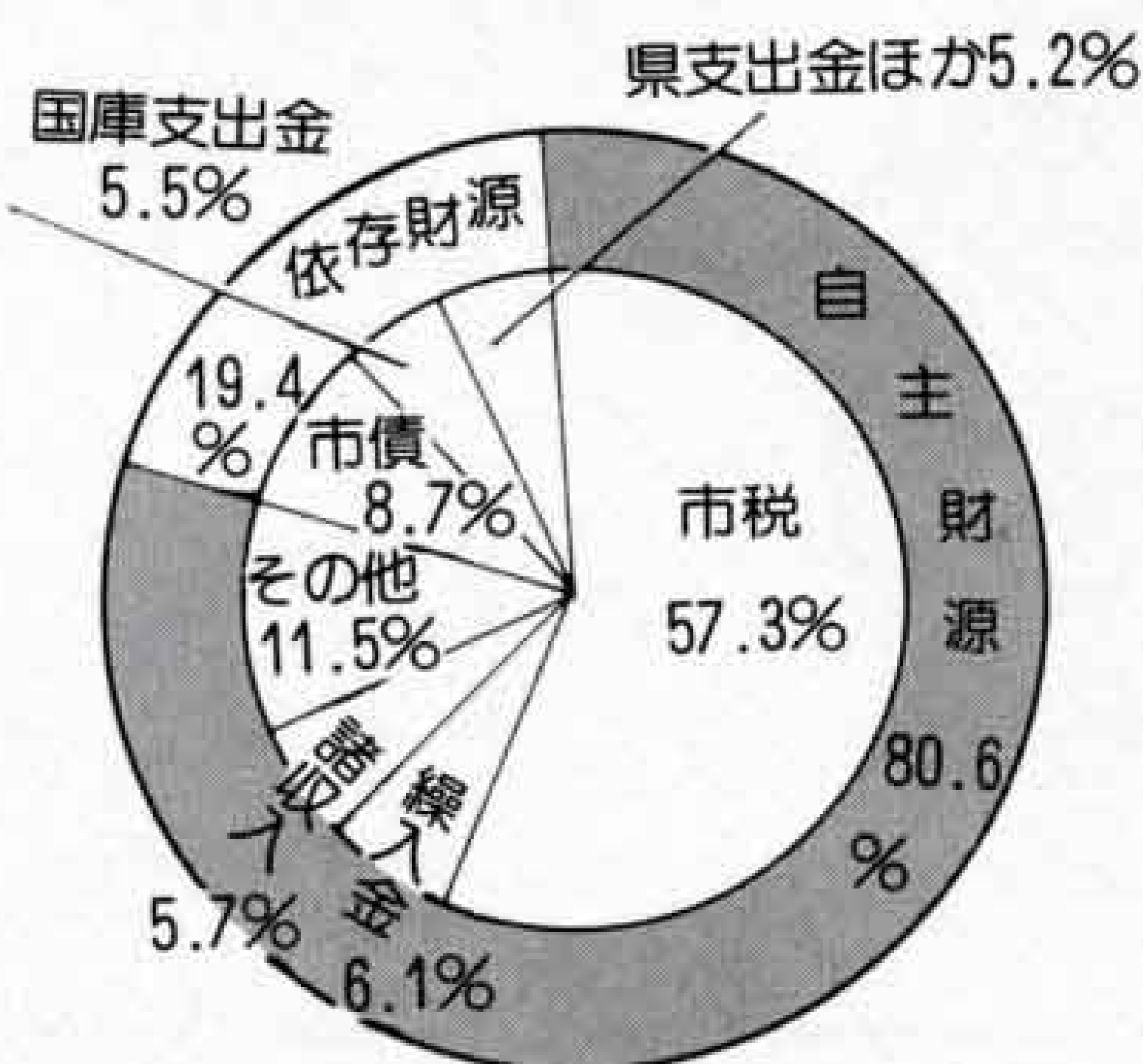
一般会計は、当初予算五百三億円に対して十四億七千九百万円が追加補正されました。歳入面では、自主財源のもとになる市税収入が、二百九十六億七千六百四十七万円で五七・三%を占めています。特別会計では国民健康保険事業会計や下水道事業会計など合わせ

て六億六千二百五十万円が追加補正されました。公営企業会計の内訳は、病院会計が五百五十万円の追加補正を含めて八十億七千九百八十三万円、水道会計が二十八億千九百九十八万円です。

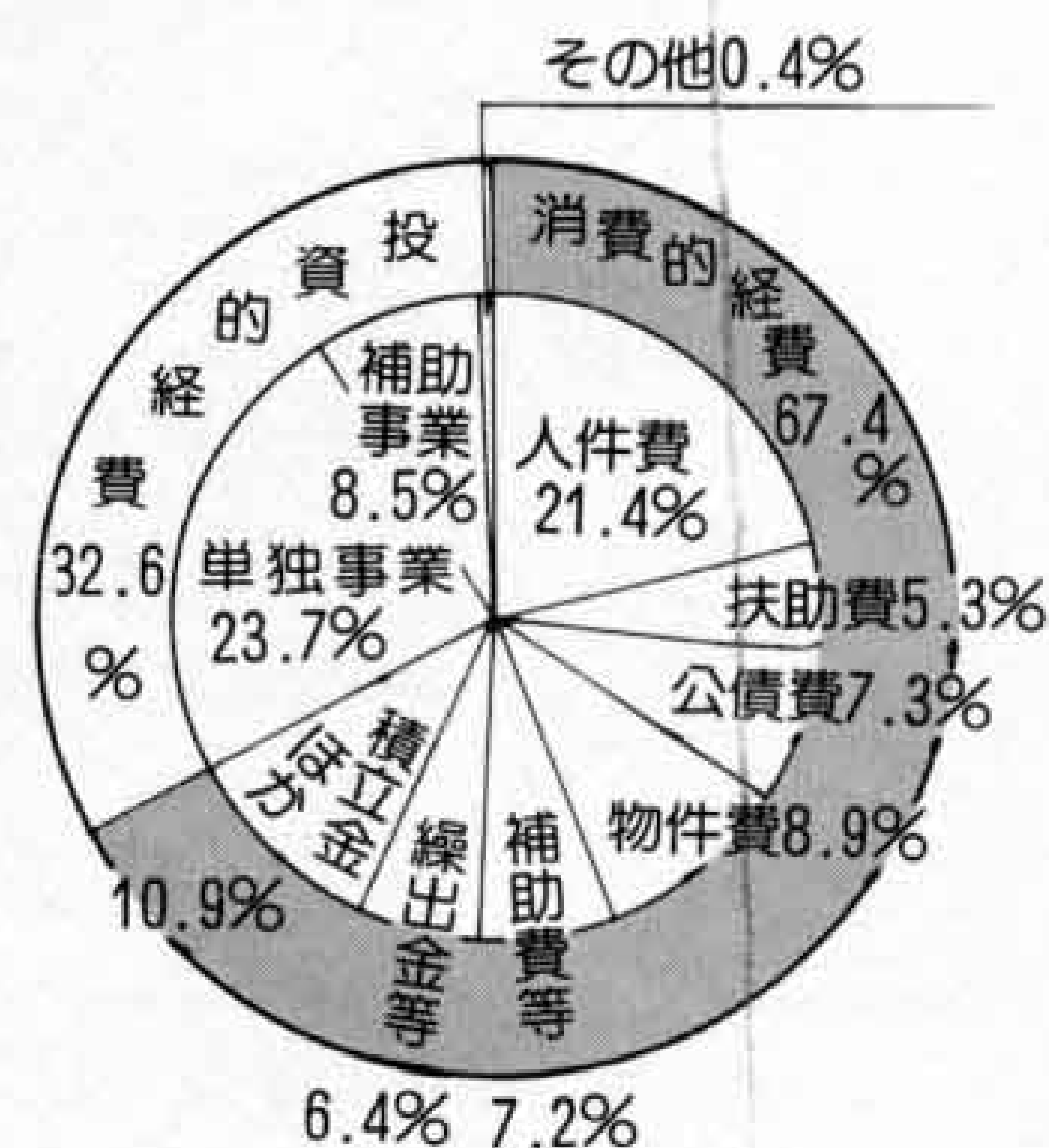
予算の内訳



財源別歳入



性質別歳出



昭和60年度 企業会計の決算状況

企業会計は、民間企業と同様に独立採算を原則とする事業について設けられた会計で、水道事業と病院事業の2会計があります。60年度決算は次のとおりです。

病院事業	収入合計	71億6,552万1,000円
	医業収益	58億6,612万4,000円
	医業外収益	12億6,130万2,000円
	特別利益	3,809万5,000円
	支出合計	69億8,828万8,000円
	純利益	1億7,723万3,000円
水道事業	収入合計	23億9,621万9,000円
	営業収益	22億2,469万5,000円
	営業外収益	1億6,618万5,000円
	特別利益	533万9,000円
	支出合計	20億7,290万1,000円
	純利益	3億2,331万8,000円

1. 富士山のように 高く 教養を深め 視野のひろい市民となります